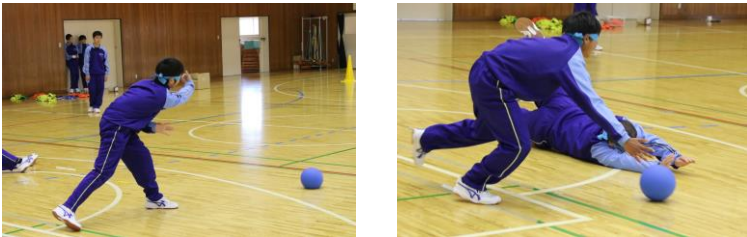


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III, V 】
2 実施対象者	坂東市立岩井中学校 1年 220人・2年 256人・3年 247人 計723人 保護者：30人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育科 ) ② 行事名 ( 教育講演会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 1 イベント名 ( ) 2 その他 ( )
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピックについての理解を深める。 ○ 障害とともに生きるアスリートの生き方や思いを聞き、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度を養う。
5 取組内容	(1) 保健体育科における取り組み ① 「パラリンピックについて知ろう」 ○ DVD教材「I'm POSSIBLE」を用いての学習 ② 「ゴールボール」の体験 ○ 第1・2学年 計14クラスで実施 ○ 目隠しをして、手を引かれながらのランニング体験 ○ 1チーム3人、コート2面でのゴールボール   ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に手を引いてもらってもスピードを出して走ることはできないし、周りが見えないことにより、すごく不安を感じた。目が見えない人の気持ちを少し理解できた。</li> <li>・目が見えないと、周りの指示がないと何もできないことが辛かった。障害のある人達はとても苦労しているのだと思った。また、障害があってもスポーツができるということがすごいなと思った。</li> <li>・周りが見えない恐怖感の中、プレーが成功したときの達成感がすごかった。</li> <li>・普段できないパラスポーツを体験でき、パラリンピックに興味をもった。他の種目を体験したり、パラ選手を応援したりしたいと思った。</li> </ul>

(2) 学校行事における取り組み

① 「教育講演会」の開催

- 期日 平成29年12月10日(日)
- 演題 「夢や目標をもって生きる 『挑戦』」
- 講師 辻 沙絵選手

リオデジャネイロパラリンピック・2017世界パラ陸上競技選手権大会 銅メダリスト



② 振り返り

- ・ これから私は、何事にもあきらめることなく、逃げずに向き合って挑戦したいと考えた。逃げなければ人間は大抵のことはできると思ったからである。
- ・ 辻さんは、「不自由なことはあまりない」と話していた。障害のある方への理解を深めることが大切だと分かった。また、がんばることが大切と教えていただき、私も勉強をがんばりたい。
- ・ 辻選手は身の周りのことをすべて自分で行う。できることをやらない自分に恥を覚えた。
- ・ 私は辻さんから学んだことを活かし、何事にも挑戦し、あきらめず、後悔のない人生を送っていきたい。
- ・ 今の日本では、障害者への差別や偏見が少し残っていると思う。私も辻選手と同じく、皆が共に生きる共生社会を目指したいと思う。
- ・ 2020東京パラリンピックにおける辻選手や日本の選手を応援したい。
- ・ 障害者に対する差別や偏見がなくなること期待したい。

6 主な成果

- 東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。
- パラスポーツの実践から、パラスポーツ及び障害者への理解が深まった。
- 教育講演会を通して、生徒は自分の夢や目標や生き方について考えたり、日々の努力の大切さについて学んだりすることができた。
- 全ての人々が共生できる社会の形成について考えることができた。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- DVDを用いてパラリンピックの概要について知り、また、実際にパラスポーツの体験を取り入れたこと。
- 本校生徒も進学する高等学校の卒業生であり、また年齢も近い講師を講演会に招聘したこと。

8 主な課題等

- 教科・領域等における学習内容の取り扱いなどを明確にし、教育課程の中で計画的に実践していく必要がある。

9 来年度以降の実施予定

- 総合的な学習の時間や保健体育科の体育理論等における取り扱いを検討しながら、障害者スポーツへの理解やスポーツの楽しみ方等について取り組んでいく。

